

### 賛成討論

**市民フォーラム**  
 本予算は、新規・レベルアップ事業を中心に、適切に予算配分されており、工夫と意欲が感じられる予算であると評価する。歳入では、売上げが厳しい中で、競走事業から6億円を繰り入れる等、努力の跡がうかがえる。歳出では、公共施設のインターネット予約や学校・文化センターの耐震化等、市民に快適さと安心を与え、将来に向けて元気を生み出す施策が、バランスよく打ち出されている。

**府中市議会市政会**  
 本予算は、「いきいき 安心 育み予算」として、今後の財政運営を考慮しつつ、福祉、教育、環境等を重視したものであると評価する。歳入では、個人市民税で、偶発特別控除の見直しや人口増により、また法人市民税は、景気の緩やかな改善により、ともに増額となっている。歳出では、介護予防コーディネーターの設置や水と緑のネットワーク拠点整備計画の策定、学校教育ネットワークシステムの構築等、美しい風格のあるまちづくりの実現に向けたものとなっている。本予算の執行に当たっては、活気ある元気なまちの実現を要望し、賛成意見とする。

### 反対討論

**生活者ネットワーク**  
 地方分権の時代と言われる中、地方自治体が生き残るためには、市民との協働が唯一の道である。平成17年度予算は、堅実な財政計画のもと事業を進めていることは評価するが、市民との協働の方向性が明確になっていない。また、市民会館・中央図書館複合施設の改築計画に初めて導入されるPFIについて、144億円の債務負担行為が設定されているが、これからの本市の公共経営、行政経営に大きく影響を与えるものと考えられる。そして、議会や市民への情報提供も十分とは言えず、説明責任を果たしていない。

**日本共産党府中市議会議員団**  
 国の進める構造改革は、所得格差、生活格差を拡大し、定率減税の縮減・廃止をはじめとする増税や負担増が、市民に更なる痛みを押し付けることは明らかである。こうした中、市の平成17年度予算は、学童クラブと保育所の運営や基準の見直しにより、正規職員配置が削減となっている。また、介護保険料の減免制度がいまだ改善されず、減免実績が余りにも少ないなど、私たちが求める福祉、教育、環境を中心とした、市民生活を応援する予算となっていない。市民の暮らしに目を向けた市政への転換を求め、17年度予算に反対する。

### 都市計画税 今後、見直しの考えは

**委員** 都市計画税は、都市計画事業の財源で、市町村が税率を自主的に決定できる唯一のものとして、目的税として歳入が歳入を上回っている状況にある。現在、同税の税率は100分の0・2となっているが、今後この税率の見直しを含めた適切な対応が必要と思うがどうか。

**資産課長** 同税の税率は、多摩26市で一番低い税率だが、これは近年の社会経済状況等を勘案し、負担調整等による負担の上昇を緩和するため行っている特例措置である。平成18年度以降の税率については、17年第4回定例会で改めて議会に相談したい。

### 歳入

#### 使用料・手数料 改定の基準は

**委員** 使用料や手数料の中には、値下げできるもの、値上げしなければならぬものがある。これらは、一度に大幅な改定をするのではなく、毎年必要な見直しを行うことが重要と思う。そこで、使用料や手数料の見直しの方法を聞きたい。

**企画課長** 使用料や手数料は、受益者負担の原則に基づき、設定基準を設けている。この基準により、毎年各主管課で原価計算を行い、基準の使用料等を算出している。この額と現行の使用料等の額の差が大きい場合は、料金改正による市民生活の影響等も勘案し、各主管課で見直しを行っている。

### 歳出

#### 介護予防コーディネーター事業 その内容は

**委員** 平成17年度、介護予防事業の目玉として、全国初の試みである介護予防コーディネーター事業が開始される。そこで、事業の内容及び今後のPRの方法について聞きたい。

**高齢者福祉課長補佐** 介護予防コーディネーターは、高齢者の介護予防プランの作成のほか、同事業が地域で継続的に展開していくためのツールコーディネーターとして位置付け、当面は、各在宅介護支援センターに1名ずつ配置していききたい。PRの方法は、今後、いきいきプラザの開業時や福祉まつり、広報紙等、機会をとらえて行っていきたい。

#### 移動教室 拡大実施の試行 問題点等は

**委員** 平成17年度のレベルアップ事業として、小学校の移動教室が1泊2日から2泊3日に拡大される。昨年、2校で試行されたところだが、実施するうえで問題点や課題はあったか。

**保健給食課長** 1泊2日の校外学習では、非常に短く不十分だという意見が多く、検討を行ってきた。問題点は、小学校5年生が初めて行う宿泊行事なので、子どもの健康状態のこと、また、施設見学場所が適正かどうかという点であった。

#### 乳がん検診 受診枠は

**委員** 平成17年度は、健康ふちゅう21が、いよいよスタートする。そのような中で、17年度の乳がん検診の受診者可能枠等について聞きたい。

**健康推進課長** 乳がん検診は応募者が多いため、一部希望者の意向には添えない状況である。17年度は、多摩地区でも最大の3000人枠を確保して、できる限り受診機会の拡大を図った。また、16年度の同検診では、2800人が受診し、そのうち、精密検査が必要となった市民は、約1割であった。

#### 第三中学校の改築工事 工事内容は

**委員** 府中第三中学校の校舎の改築工事が開始される。そこで、平成17年度の工事の予定を聞きたい。

**総務課長補佐** 仮設校舎完成後の校舎の解体、改築工事や附帯工事等を予定している。なお、太陽光発電は19年度に設置する予定である。総務課長 学校では環境教育等に力を入れている。屋上緑化等の現場を見ることができるとは、その意義や教育的効果も大きいと思うので、教育の中で十分に活用できるように努めていきたい。



▲移動教室から(矢崎小学校)

うかという点であった。この問題点については、昨年度に拡大準備委員会を開催し、問題の解決を図ってきたところである。